

「岩手の未来を切り拓く構想」のアイデアについて

1. 構想の名称

「岩手みらいを作る寺子屋プロジェクト」

2. 背景とねらい

今、岩手の「福祉」、「医療」、「教育」は危機的な状況に陥る局面を迎えています。その原因は大きく二つあります。一つは、歴史的にどの国もが経験したことの無い急速に進んでいる日本の少子高齢化。もう一つは、情報と金融が中央に集中したことにより広がった地方の活力の減退です。

この状況の進行を止め、新たな道を作ってゆくには次のことを考える必要があります。

- (1) 医療の進化は日本人の高齢化を実現しました。しかし、高齢化に伴う問題も生じています。高齢者への医療費や福祉費の配分不足です。この問題を少しでも解決するためには健康で元気な高齢者がどんどん増えてゆく構想を始めることです。
- (2) グローバリズムや自由経済の過度な進行が生み出した経済格差。学力の低下の原因となったのではないかとされている「ゆとり教育」。いま、日本の教育の格差が問題になっています。教育の格差は希望の格差となり社会の安全を脅かしかねません。このことは、治安が不安定な海外の国の教育事情が証明しています。この問題に対処するためには基礎学力を平等に受けることができるシステムが必要です。

3. 構想の基本的な考え方

私たちは様々な社会的基盤や価値観が大きく転換してゆく時代にあっても岩手の希望を作る方策は歴史に答えがあるのではないかと考え「岩手みらいを作る寺子屋プロジェクト」を企画いたしました。

「岩手みらいを作る寺子屋」（以下、「寺子屋」）の基本的な考え方は二つあります。

第一番目は、高齢者が健康・予防医学や新たな知識を楽しく学びQOL（生活の質）を高める場とすること。元気で健康な高齢者は地域に活力を呼び戻します。

第二番目は高齢者とこどもの交流を促進する場とすること。こどもの学力と思いやりを育てる機会となります。ここでは、高齢者はこどもから元気をもらい、こどもは高齢者から歴史や知恵を学びます。

二つの基本的な考え方の根拠は次に述べます。

- (1) 脳科学では脳を働かせることにより、脳機能の低下を防ぐだけでなく、健康の維持につながることも分かっています。前向きに新しいことに挑戦してゆく気持ちが良質のホルモン分泌を促すと言われています。また、元気な高齢者（80歳以上）のアンケートによりますと「やりがいをもっている」と答える、社会と接

点を持ち貢献している人の占める割合が高くなっています。

これらのことから、他人から「学ぶ」、他人に「教える」という行為が元気で健康な高齢者となるには有効な方法と思われる。

思うに、高齢者の多くは仕事を通じて専門的知識や技術を持っています。この知識や技術を発表し合い共有することは、地域の元気につながるはずで

- (2) 元気で健康な高齢者は自分なりの健康法や予防医学を実践していることが多いようです。そこで、「寺子屋」では、専門家からの健康を保つための有効な方法を学べる場とします。このとき、高齢者一人一人は体質も考え方も異なるので専門家から「学ぶ」だけの場ではなく、健康法を実践しその効用を感じている高齢者の「教える」場にもするのがいいでしょう。
- (3) 元気で健康な高齢者の約9割がかかりつけ医を持っています（国民健康保険中央会）。「寺子屋」では地域の開業医に高齢者特有の病気に対する予防法や対処法の指導をお願いします。このことを通してかかりつけ医の定着を図ることができます。
- (4) 人間を元気にするのは人間です。笑いの治癒力も多くの医師から指摘されています。ですから、地域の福祉を成功させるためには普段からフェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを取れる地域の相互扶助の輪を広げてゆくことではないでしょうか。ところが、核家族化の進行により年々高齢者だけで暮らす世帯が増えています。一方で、経済活動の変化や価値観の多様化に伴い昔ながらの近所での人間関係が希薄になっています。
そこで、「寺子屋」を世代を超えた交流の場とし地域の福祉を進める情報収集に役立つように利用します。例えば、掲示板を置き、「あげます」「探しています」「困っています」「お手伝いします」等を書き込むことができるようにします。
- (5) 一人で遊べるテレビゲームやDVD・ビデオ等の長時間の利用が学力低下の大きな原因のひとつとされています。また、少子化や各家庭での教育方針の多様化で習い事の機会が増え、こどもが放課後に集まることが少なくなっています。コミュニケーション能力の開発には、学年を超えてこどもが集まる「寺子屋」は有効であると考えられます。ここでは、高齢者から学ぶ昔の遊びから、思考や論理の土台である想像力を育てる「遊び力」が身につきます。
- (6) 高齢者の持っている教育力は地域の貴重な知的財産です。これをこどもの教育に利用しない手はありません。そこで、放課後にこどもたちと高齢者の「読み聞かせ」を中心とした読書会をします。読書会はある程度年齢が異なっても、習熟度に差があっても行えます。それでいて、学習効果も期待できます。また、音読を続けることによって高齢者の記憶力が若返ったという東北大学加齢医学研究所の研究もあります。
- (7) 高齢化が進んでゆく社会において若年層による高齢者への思いやりは社会を調和

させてゆくためには不可欠です。

しかし、今「振り込め詐欺」のように若者がお年寄りを狙う犯罪が多発しています。その原因の一つに核家族の増加したことにより、家庭からお年寄りが減り、子どもと高齢者とのふれあいが断絶し、お互いに共感を育てあうことが困難になってきているからではないでしょうか。

「寺子屋」は地域で子どもと高齢者の交流を図り安全を守り、将来の相互扶助の社会を作るための布石となります。

4. 構想に基づく取り組み等の概要

公民館等の既存の公的施設や地域の小学校の空き教室を「寺子屋」として定期的に利用します。平日の午前中は高齢者の学び合いに、午後や週末は高齢者と子どもの交流に使用します。

5. 取り組みにあたっての役割分担

(1) 岩手県

- ① 各地の「寺子屋」間の情報交流のネットワークを作り、活動を活発化させます。
- ② 福祉の担当者が各「寺子屋」に集まった福祉に対する情報を収集し、福祉の実務に生かします。

(2) 県民

- ① 少子高齢化社会をどのようにしてゆくかは地域力をいかに育ててゆくに懸かっています。「寺子屋」は維持管理・運営のボランティアとしても講師としても、地域の住民ならば広く誰でも参加できるものです。その意味では、地域力を高めてゆくには期待が持てるシステムです。
- ② 多くの人が本に接する機会を増やすために県民は自宅で眠っている本を寄贈します。知的資源の「もったいない」を解消し活用するには時代的にも合致しています。

(3) NPO

NPOは活動している発表を通して問題を提起し、解決法を示すことにより広く県民の支持を集めることができます。また、「寺子屋」から新たな公益的な活動が生まれる機会もあります。

(4) 市町村

憲法が保障する地方自治の本旨とは、きめ細かく住民の意思を汲み取り住民の幸福を実現してゆくことです。そして住民に一番近いのは、基礎自治体である市町村です。従って、「寺子屋」運営は原則として、市町村との協力が不可欠です。

- ① 公民館等の公的施設の維持管理を行います。
- ② 時間割等のスケジュールの調整をします。
- ③ 保健師や健康の専門化の手配をします。

④福祉の担当者は情報を集め、よりきめ細かい福祉の実現に役立てます。

(5) 地区の学校

学校と「寺子屋」の連携を図り総合的な学力と情操教育の向上に対する提言を行います。例えば、地区の学校の教師によるこどもの読み聞かせの資料へのアドバイス等です。

(6) 企業

公益に資する情報の提供をします。また、ボランティアとして「寺子屋」に参加します。ここから集まる地域の福祉・医療に対する要望から今後必要とされる新たなサービスや商品の開発に役立つ可能性もあります。

6 さいごに

高齢者を快く受け入れる社会も、こどもを暖かく見守る社会も地域の力に支えられたものです。この企画は、今最も懸念されている「医療」「福祉」「教育」という問題を岩手という地域の力を強くしながら対処してゆくという観点から企画しました。